

第3回循環器病対策情報センター講演会

日時 令和8年6月22日(月) 17:30 ~ 18:30

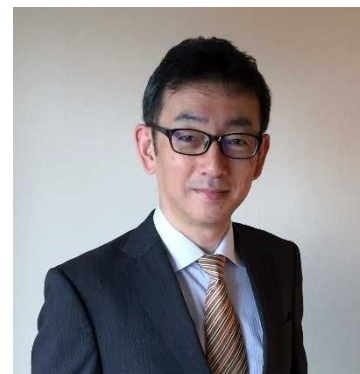
会場 国立循環器病研究センター研究所 2F 「第14会議室」

(大阪府吹田市岸部新町6-1)

座長 国立循環器病研究センター循環器病対策情報センター長

飯原 弘二 先生

循環器病対策におけるロジックモデルと
指標を活用した評価実装
～地域診断と実効的 PDCA サイクル
への応用～



演者 国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野 教授

埴岡 健一 先生

※ご参加希望の場合、右記二次元コードまたは、下記 URL

(<https://forms.office.com/r/BqncGTzHaY>) より

6月22日(月) 正午までにお申込みくださいますようお願いいたします。



国立循環器病研究センター 循環器病研究センター長 飯原 弘二

事業計画班 副主査 石上 晃子、星野 宏道、尾形 宗土郎

情報発信啓発班 主査 北井 豪、副主査 吉村 壮平

厚生労働行政推進調査事業費「循環器病対策推進基本計画における循環器病対策の進捗評価及び進捗管理に資する新たな評価指標の実装に向けた研究」班

(26FA2003 研究代表者 飯原弘二)

要旨

○本講演では、「ロジックモデルと指標を活用した評価」をテーマに、循環器病対策推進計画や医療計画における評価実装の考え方と実践例を紹介する。

○前半では、ロジックモデル、指標、プログラム評価(ニーズ評価・セオリー評価・プロセス評価・インパクト評価)の基本構造を整理し、国のがん対策や沖縄県医療計画など、実際に PDCA サイクルとして運用されている事例を提示する。また、改正医療法や厚生労働省通知において、ロジックモデルと指標を活用した評価が制度的に位置づけられつつあることを概説する。

○後半では、脳卒中分野の「評価支援シート(ロジックモデルの上に全国と選択地域の指標計測データが表示されるツール)」を用い、具体的な医療圏を事例として地域診断を実演する。死亡率、急性期医療、リハビリ、在宅支援等の指標を、ストラクチャー・プロセス・アウトカムの連関として読み解き、短時間で地域課題を抽出する方法を示す。地域の政策立案・評価担当者がロジックモデルと指標をどのように活用できるかの視点から、データを単独で扱うのではなく、熟議と政策形成につなげる評価実践のあり方を追体験する。

○これにより、循環器病対策分野のロジックモデル関連成果物に求められる要件を検討するための材料を提供することを目指す。

演者略歴

埴岡 健一 (はにおか けんいち)

国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野 教授

- ・兵庫県出身、大阪大学卒
- ・日経ビジネス副編集長
- ・がん(白血病)患者遺族→日本骨髄バンク事務局長
- ・東大・医療政策人材養成講座・特任教授
- ・がん対策基本法を提唱→国・がん対策推進協議会委員
- ・都道府県、市町村などのがん対策、医療計画、健康増進計画、在宅医療介護連携事業の PDCA サイクルを支援
- ・日本評価学会 認定評価士
- ・厚生労働省都道府県研修講師:
 - 医療政策研修会ロジックモデル研修(2026年3月/2023年6月)
 - 循環器病対策推進計画策定研修会(2020年11月/12月)
 - 地域医療計画策定研修(2016年10月)
- ・がん対策推進協議会参考人「ロジックモデルを活用した中間評価」(2025年7月)